

修道

information

●ご挨拶	
会報誌の発行にあたって 深山英樹(高12回)	1
●支部活動報告	
関東支部 諏訪 昇(高36回)	1
近畿支部 世良朋孝(高35回)	2
九修会 石本俊亮(高27回)	2
東部修道会 前原敬悟(高20回)	3
江能修友会 胡子雅信(高41回)	3
修道医会 大段秀樹(高33回)	3
広島修道歯科医会 毛利雅哉(高31回)	4
広島市修道会 正留圭一郎(高54回)	4
●特集 スポーツ	
祝・日本サッカー協会殿堂入り 今子正義(高7回)	5
西田頼信(高2回)	5
第31回オリンピック競技大会(2016リオデジャネイロ)報告	
山縣亮太(高63回)	6
●人物往来	
ハーン研究の礎は修道の授業 風呂 鞏(高8回)	6
●歴史	
一期一会のいつか「懐古録」(4) 森山純爾(旧中29回)	7
輝星 宇宙へ還る 田中正晴(旧中38回)	10
修道の思い出 奥本 博(旧中39回)	10
●同期会報告	
「修二会」報告 西田頼信(高2回)	13
高校4期会 中学入学70年 皆川孝一(高4回)	13
平成28年度 修七会 山下 泉(高7回)	13
平成28年度『修道12回同期会』を終えて	
増本光雄(高12回)	13
昭和31年(1956年)卒『修道中学6組会』同窓会	
増本光雄(高12回)	14
第29回修寿会総会・懇親会報告 田中佳樹	14
●事務局だより	
計報	14
役員改選について	15
住所変更手続きのお願い	15

支部活動報告

修道学園同窓会関東支部 有名人がトークし チアが宙に舞う

諏訪 昇(高36回)

去る7月11日、東京ドームホテルにて恒例の修道学園同窓会関東支部のつどいが開催されました。今年のテーマは「SHUDO.Cheer Up Toward The Future」。不確実・不透明な時代の中にあっても歩み出さなければという総会担当幹事の自戒の念と修道OBへの願いが込められたものでした。

講演会は、東大工学部物理工学科卒、現筑波大数理物質科学研究科教授で2014年度島津賞受賞者重川秀実(高26回)さんに「ナノテクノロジーの贈り物」『化粧品から宇宙まで』と題して、最先端の応用科学をご披露頂きました。

今年のつどいは当初、吉川晃司(高36回)君を映し出したり、各界で活躍する修道OBを講師に招く関東支部青年部会の活

動報告など、大型センタースクリーン2面を利用したビジュアルコンテンツを一つの柱に据える計画でした。

しかし、直前の六月下旬に吉川君が36回の同期のためにということと夏のライブツアーの最中にもかかわらず急遽出演を確約してくれることになり、吉川君発案による関東支部会長(三菱重工相談役)の佃和夫(高14回)さんとのトークショーが実現することになりました。

司会の西村真二(高55回)さんと、あの『下町ロケット』の前部長のようなスリッ姿の吉川君が颯爽と登場し、トークが始まりました。お二人の準備時間が殆どなかったことを知る者にとつて、トークの順調な滑り出しには安堵すると共に、ドラマの裏話など観衆の注意を惹く神懸った内容へと移って行きました。おやつ、高さ800mmのステージでは座っ



た状態でも観衆から見えるはずなのに、お二人とも中々着席しようとしません。どうやら諸先輩方を前に着席は礼を失うと考へた吉川君の考えでこのような形になったとの由。佃会長が登壇されてからはさすがに着席されましたが、会社組織の話や実際のロケット事業の話など話題は多岐に亘

り、夢のようなトークショーが実現いたしました。その後間髪入れずに、チアリーディングチーム「ジュエルズ」さんが大学生との混成で総勢19名、テンポの良い曲と共にステージに登場。文字通り宙に舞うという競技チアのアクロバティックな演技をご披露頂き、観衆の目を釘付けにいたしました。最後は、恒例の校歌斉唱。今年は元慶應義塾大学応援指導部団長の児玉忠弘(高16回)さんがマイク無しの若さ溢れる口上と音頭取りでもつて、来賓の方々もチアと肩を組みながら校歌斉唱し、大会の雰囲気最高潮に達したところでフィナーレを迎えました。

初夏のお忙しい所、今年のつどいにご参加頂いた来賓の方々や修道OBの諸先輩の皆様には厚く御礼申し上げます。とりわけ、今年のつどいは、吉川君の修道に対する思いと共に、関東支部事務局の方々はじめ、三菱重工秘書室や吉川君のマネージャー他関係者の方々のご理解とご協力がなければ到底実現し得なかったもので

ご挨拶

会報誌の発行にあたって



修道学園(中・高)同窓会
会長 深山 英樹(高12回)

会員の皆様におかれましては、日頃より同窓会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。同窓会会報誌第82号を発行するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本会報誌第82号にも多くの会員の皆様のご寄稿いただきました。ご寄稿くださった皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。これも会員の皆様、修道卒業後も同級生、先輩、後輩、それに恩師とのつながりを大切にされてこられたが故と存じます。本会報誌が、会員の皆様同士をつなぐことに少しなりとも貢献できれば幸いです。

今後も、修道学園(中・高)同窓会は、前述のとおり、会員相互の親睦を図るとともに、母校の発展に寄与するべく、活動を充実させてまいります。会員の皆様には、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

支部活動報告

あり、「6」の期を代表して大変感謝申し上げる次第です。

2016年総会が同窓会活動に対する若い世代の関心の契機となり、修道関係者全員を元氣付けるものとなることを祈念して。

近畿支部 2015年度 総会・懇親会 開催報告

近畿支部事務局 世良 朋孝(高35回)

2015年12月6日(日曜日)、大阪新阪急ホテル(大阪市北区芝田)において、近畿支部2015年度総会および懇親会が開催されました。

今回から心機転、会場を交通アクセスの良い大阪・梅田に移し、広島から清原教頭、深山同窓会会長をお迎えし、昨年に引き続き、100名越えとなるほぼ110名の同窓生が集いました。

司会は、今年も副代表幹事の有馬さん(高校24回)、総会に先立って午前11時から、日本プロゴルフ協会トーナメントプレーヤー、田村尚之さん(高校35回)による講演「がんばらないから上手くなった」でスタート。3年前に49歳にしてプロテストに合格。2015年度のシニアツアーで好成績をおさめ、大変注目を集めている田村さん。プロになるきっかけとなった倉本昌弘、プロからの声掛け、サラリーマンを続けながらツアーに参加するという環境で、短い練習時間の中で、効率的にゴルフが上達するポイントをわかりやすくお伝えいただきました。また、参加者のパター指導も行っていた。また、有意義な講演をいただきました。

更に、2015年12月に公開された話題作、「海難1890」(1890年に起きたエルトワール号遭難事件と、1985年のイラン・イラク戦争時に残り残された日本人救出の顛末を、日本とトルコを舞台に壮大なスケールで描いた大作)のプロデューサーをつとめられた、大原詔久さん(高校17回)

に、映画の紹介とその裏話を、プロモーションビデオを交えてお話しいただきました。

その後、総会に移りました。始めに、長年にわたり近畿支部の運営にご尽力いただきました、故・春木宏巳さん(高校9回)をはじめ、この一年間にお亡くなりになったOBの皆様方へ哀悼の意を表し黙祷をささげました。近畿支部会長の齋本さん(高校17回)の開会挨拶の後、前年度の事業報告・会計報告が、代表幹事・会計担当の林さん(高校19回)より、また会計監査報告が監査担当の伊藤さん(高校13回)からそれぞれ付議され、各議案および報告事項とも全会一致にて承認され、総会は滞りなく終了しました。

この後、引き続き、清原教頭・深山同窓会会長の順にご来賓各位のご挨拶により懇親会が開始されました。清原教頭からは、自らが参与として引率されているワンダーフォーゲル班が滋賀県で行われた大会で9年ぶり5回目の全国制覇をされたことをはじめ、書道班・陸上・テニス班・水泳班・スクールバンド班などの活躍など、創立290年を迎えた我が母校の状況をわかりやすく報告いただきました。深山会長からは、修道学園所蔵の重要文化財指定への動きと、同窓会名簿の発行についてのご報告がございました。そして、近畿支部顧問の角武雄さん(高校8回)の乾杯の音頭のち、しばしの間、懇談、昔話に花が咲きました。懇談中は、昔懐かしい映像の数々が映し出され、歓談に花を添えました。

次いで、懇親会の華ともいえる豪華ゲストの相次ぐ登場により会はクライマックスを迎えます。まずは今回初登場、スクールバンド班出身で、プロトランベッターとして活躍中の寺田啓彦さん(高校53回)の素晴らしいトランペット演奏。その才能あふれる繊細かつ華麗な演奏に、参加者一同酔いしました。次に毎度おなじみになりました近畿支部副代表幹事の近藤達夫さん(高校29回)のソロ。相変わらずの音量に同圧倒され、魅了されたひとときでした。

また、毎年恒例となりました若手参加者の披露。ご挨拶。今回の最も若手となる高校58回、28歳の石原さんと川野さん。最年長である旧中36回、御年88歳の今村さんにも一言ご挨拶いただきました。60年以上の世代ギャップを感じないのも、この総会・懇親会の良いところであると感じます。

最後に、太田英之さん(高校31回)、副代表幹事の近藤さん、事務局長の世良(高校35回)のリードのもと、全員が肩を組みながらの校歌斉唱となりました。卒業した年代は違えども、修道近畿支部の同窓会旗のもと、「安芸の小富士に」と歌い始めると、自然とあの頃に戻る感覚を味わえるのは、同窓会ならでは、いつも感じます。最後に、結城副会長(高校17回)による閉会挨拶で幕を閉じ、次回2016年12月4日(日)の再会を誓い合いました。

ご協力いただきました関係各位、そして参加者の皆様に、改めて御礼を申し上げます。



平成27年度第23回九修会 総会報告

九修会事務局 石本 俊亮(高27回)

平成27年度の九修会総会は、昨年の開催が修道のマラソン大会と重なり、田原校長に現地より駆けつけていただくことになりましたので、少し時期を遅らせ2月20日

の開催となりました。本年も、田原校長、深山同窓会会長をお迎えし、新たな参加者も加えて21名での開催となりました。会の冒頭、井上会長(S43)より、広島経済界の状況など、明るい広島の話を読みました。

続いて、田原校長より、昨年の修道学園290年祭の話をいただき、10年後の300年祭の思いをはせたところでした。

また、深山同窓会長より、様々な分野で活躍し、社会貢献を果たしている修道卒業生の話を読んだとともに、九修会総会開催に対する祝辞をいただきました。

続いて、例年通り乾杯は、席決めて配布する三番くじを引かれた、古川さん(H04)にお願いし、にぎやかに懇親会がはじまりました。

今年度の総会の開催案内にあたっては、新しい修道学園の名簿をもとに住所録を見直したことで、新しいメンバーの方々とのつながりができました。新しく参加いただいたのは、S59卒の梶川さん(なんと梶川先生の息子さんということで、学生時代に戻って話が盛り上がりました)、S62卒の新見さんでした。それ以外でも、S57卒の新田さんやS55卒讃岐さん、S62卒吉田さんなど、多くの方々より返信はがきによ



後列左側より、三好(H01)、新見(S62)、梶川(S59)、青原(S34)、石村(S35)
中段左側より、古川(H04)、濱岡(S41)、浅海(S62)、芹川(S47)、石本(S40)、石本(S50)、近藤(S49)、上部(S52)、盛脇(S45)
前列左側より、伊古野(S61)、田原校長、深山同窓会長、井上会長(S41)、黒田副会長(S38)
別枠 早退された藤谷先輩(S31)

る近況報告をいただきました。

総会の席では、例年通り近況報告をみなさんからいただきましたが、皆さん話題豊富なため、予定の2時間半があつという間に過ぎ去りました。最後は、校歌で締めくくり来年度の再会を誓いました。

また、新しい名簿をもとに、九州地区で学ぶ修道生が60名近いこともわかり、夏休みを利用して交流会を企画しています。これについては次回報告ができればと思っています。

東部修道会よりご報告

前原 敬悟(高20回)



東部修道会は平成元年に発会しました。発会以来会長は2回生の品川晃二先輩にお願いして今日まで28年間勤めていただきました。

私は、今年品川会長の意思により幹事会から指名いただき会長を引き継ぐことになりました前原敬悟(高20回)です。

どうぞよろしくお願いいたします。

東部修道会の発会のきっかけは平成元年、丁度その年は参議院議員の選挙の年でした。昨年、他界した藤田雄山君(高20回)が初めて参議院選に立候補した折に、東部の修道同窓生で応援しようではないか、と話がまとまって始まりました。そのきっかけが選挙から始まっただけに中には参加に抵抗を持たれた同窓生もあつたと思います。しかし、実際には東部に暮らす同窓生が新たな人のつながりを得て、仕事に生活にと潤いが生じたと思います。

東部修道会を作るときに、こ

第26回 東部修道会 総会



- 顧問…品川晃二(高2回)
会長…前原敬悟(高20回)
副会長…恵谷龍二(高23回)
木川仁志(高36回)
河本一志(高43回)
吉田大造(高25回)
小畑泰偉(高26回)
山崎義明(高41回)
幹事…他16名

とのほか喜んで協力し幹事を務められた17回の徳永隆茂先輩(平成23年11月没)を思い出します。福山では徳川家大老阿部正弘の時代に起源を発する誠之館高校があり、商工会、政界などで幅を利かせています。したがって商工会などで同窓会の話題となると誠之館が出てくる、が、これで福山に修道同窓会有りと言える、と喜ばれました。そして、徳永先輩は毎年の総会後肩を組んで輪になって校歌を歌う時、目を閉じて上を向き校歌を高々と歌われました。

毎年1回総会を開催してきましたのですが一度だけ開けなかった年があつて本来なら第28回となるべきですが、第27回の東部修道会総会を平成28年10月22日土曜日に開催します。東部修道会では、現役修道士の父兄会(修道33地区)の父兄に参加してもらっています。毎年、歴代の校長先生に出席していただき修道現役生の様子を話していただいておりますが、最近では田原校長先生が出席され総会、懇親会終了後校長先生と33地区のお母さん方との2次会が特に盛り上がりつつあります。

今後も、東部修道会は修道生の活躍を祈念し、同窓生の親睦のために活動して行きたいと思っています。以下は、今年からの東部修道会役員です。よろしくお願いたします。

第22回 江能修友会総会

胡子 雅信(高41回)

平成27年7月7日に発足しました江田島市(江田島・能美島)出身および関わりのある者を会員とする江能修友会も22年目に入ります。今年も宇品港から直行便がある能美海上ロッジ(江田島市能美町)にて総会および懇親会が開催されました。このたびは修道学園(中高)同窓会から深山英樹会長、学園からは田原俊典校長



平成28年6月19日(日) 於 能美海上ロッジ

が出席くださいました。

総会では昨年9月に逝去された浜井貴人会長(高20回)の後任として今田裕一(高20回)が副会長(高17回)が会長に選任され、新体制がスタートしました。

また、田原校長による修道学園の近況報告と

して、学校の施設拡充がすすみ、今年は300周年(2025年)にむけての動き等の報告もありました。時にはユーモアを交えての報告に、ときおり先輩方から笑いが起つて和やかな総会を終えることができました。懇親会では、深山会長から温かいご祝辞を頂戴しました。会員の皆さんも懇親会では深山会長と親交をあたためていました。

お食事には江田島ならではの旬の食材、コイワシ(6月10日が解禁日)の刺身・

天ぷら、夏牡蠣(ひとつぶくん)が用意され、ご来賓の皆様、また、会員各位も舌鼓をうち、おいしいお酒を飲み交わしながら楽しいひと時を過ごしました。最後には恒例の肩組みながらの校歌を大合唱して来年会う日を約束して散会しました。

修道医会平成28年度(第60回)総会、修道医会創立60周年記念大会・祝賀会報告

修道医会事務局局長 大段 秀樹(高33回)

修道医会は修道学園を卒業し、主として広島県内で医師として活躍している方々の集まりであり、会員数は1,000名以上です。昭和31年7月1日に発足して以降、毎年1回の総会、ゴルフ大会、家族会(野球観戦)等を催しています。平成20年から学生部会をつくり、広島大学医学部の在学生のみならず、他大学医学部の在学生にもよびかけて部会としての活動を行っています。

今年度の総会は修道医会創立60周年記念となり、平成28年7月23日(土)、ANAクラウンプラザホテル広島を会場に開催しました。午後4時30分より評議員会、午後5時からの総会において、平成27年度の事業報告や決算報告に加えて、平成28年度の事業計画や予算が担当幹事より提示され、いずれも原案通り承認されました。また、平成29年度からの年会費引き上げについても承認され、現行の年会費3,000円を年会費5,000円とすることが承認されました。第18回学術奨励賞は高校47回卒の福原崇之先生(独立行政法人国立病院機構広島西医療センター 肝臓内科)が、非アルコール性脂肪性肝疾患に関する論文業績によって受賞され、第16回社会功労賞は梶川博先生(高校9回卒)が受賞、第9回文化功労賞は該当者なしとなりました。次いで午後5時半からの特別講演では、修道医会創立60周年を記念

支部活動報告



では、作成した旗の披露と、修道学園への寄附を発表しました。修道中・高校生によるジャグリングの披露では、会場がとても盛り上がりました。田原俊典校長から学園の現状を伺いました。さらに前述の2つの賞の表彰と受賞者の謝辞が続く、学年毎での記念写真を撮影の後、土肥雪彦先生（高校6回卒）のご発声で乾杯して懇談に移りました。途中で、歴代会長への感謝状贈呈、就任ご挨拶では、梅本誠治先生（高校26回卒）広島大学病院総合医療研究推進センター教授、のご紹介、ご挨拶がありました。学生部会からは5名が参加し、自己紹介をして頂きました。

し、過去を振り返るべく、修道中・高校の歴史と修道医会60周年の歴史をテーマとしました。特別講演(Ⅰ)では、修道中・高等学校元校長、島貫實先生（高校7回卒）に、「修道今昔」と題した講演を拝聴し、特別講演(Ⅱ)では、修道医会第8代会長の岩森茂先生（旧中36回卒）に、「医学部修道医会の夜明け」と題した講演を拝聴しました。

午後6時15分から全体の記念写真撮影を行い、午後6時半からは会場を移して創立60周年記念大会・祝賀会で、校歌斉唱からスタートしました。

岩森洋会長（高校18回卒）のご挨拶に引き続き、ご来賓の貫名賢修道学園同窓会副会長よりご挨拶を頂き、創立60周年記念事業



今回の参加者は117名でありましたが、最後に肩を組み校歌を斉唱し、修道健児の心意気を示すとともに、今後の各分野での個々の活躍と修道同窓生としての連携を確認した次第です。

平成27年11月7日(土)午後4時より「ANAクラウンプラザホテル広島」において、第52回修道歯科医会総会が開催された。

総会は久保康治専務理事の司会進行で行われ、まず、大原省三会長より出席した会員に向けての挨拶があった。引き続き、各部からの報告等が行われた。また、今年度は役員改選の年にあたるため協議事項として提出されたが、会長・役員ともに続投が決まりつつがなく終了した。

第52回広島修道歯科医会総会

毛利 雅哉(高31回)

平成28年度(第62回)広島市修道会総会

広島市修道会事務局 正留圭一郎(高54回)

広島市修道会は、広島市職員のうち、修道中学・高等学校、修道大学の卒業生約450名で構成されています。また、これらの卒業生である市議会議員の先生方にも顧問として入会していただいています。

年に一回行っており、また総会及び懇親会は、今年で62回を数える市役所の中でも歴史の長い同窓会として続いているところであり、今年も7月19日にメルパルク広島にて開催されました。このたびは、来賓として修道中学・高等学校より田原校長先生、修道大学より岡本副学長をお招きし、顧問である市議会議員7名、当会OB1名を合わせて総勢70名の参加がありました。

総会に続き午後4時30分より講演会が行われた。今年度は講師に広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門(歯科矯正学)所属の谷本幸太郎先生にお越しいただき、「矯正歯科と再生医療―骨髄幹細胞の有用性と現状の課題―」と題する講演をしていただいた。谷本先生は唇顎口蓋裂の手術における人工骨について研究されており、骨芽細胞や軟骨細胞などへの分化誘導が可能な間葉系幹細胞を骨髄から単離し、これを培養増殖して臨床に應用しようというお考えである。我々の日常臨床とは関わりが少ない分野ではあるが、ここまで進歩してきている再生医療に一同驚きを隠せず、講演を興味深く拝聴した。

記念写真の撮影を挟んで、懇親会が同所で午後6時より行われた。例年通り、田原校長にご来賓としてお越しいただき、母校の現状についてお話をいただいた。同じ修道の同窓として和気藹々とした時間を過ごし、最後に一同輪になって恒例の校歌斉唱でお開きとなった。

総会では、平成27年度の会計・監査報告ののち、人事異動に伴う役員の変更等についての議題審議があり、満場一致で承認されました。続く懇親会の部では、田原校長、岡本副学長に学園の近況も交えたご挨拶をいただきました。会員の多くは、卒業後に学園について触れる機会がほとんどないため、中学・高校、大学ともに今もなお発展し続けている近況を聞くことができ、在りし日の思い出に浸るとともに、大変誇らしい気持ちでいっぱいになりました。公私とも御多忙の中御出席頂き、心温まるご挨拶をいただきました。田原校長、岡本副学長のお二方には、この場を借りて改めて御礼申し上げます。また会員が毎年楽しみにしている、大ビンゴ大会では、黒毛和牛のステーキや、有名銘柄の日本酒などの豪華景品が目がくらみ？先輩後輩の垣根を超えて大いに盛り上がりしました。

昨今は、市役所内でも個人情報取り扱いについてはデリケートな問題ということもあり、新規メンバーの勧誘がなかなか難しい状況ではありますが、市役所という大所帯の中で、同窓の先輩後輩が一堂に会し話をする機会というものは普段なかなかないため、そのような貴重な場となる同会を、今後とも発展させるよう、次回総会は一層の参加者増加に努めていきたいと考えています。



祝・日本サッカー協会殿堂入り 下村幸男氏(高2回)

西田 頼信(高2回)

昨年9月、下村幸男氏(高2回)が、修道OBとしては故森孝慈氏(高14回)に続いて日本サッカー殿堂入りされました。以下の2冊は、高校サッカー完全優勝の偉業を達成されるまでの、下村氏と高校14回7人による努力研鑽の4年間を、丹念に取材・記録していますので、ここに紹介します。



作家
今子正義(高7回) 著



『修道高校完全優勝への熱戦記』
修道サッカーOB会・14回生一同刊

『原爆少年サッカー魂』
南々社刊

下村氏はコーチを引き受けて4年間は、日曜日には寒い日も暑い日も雨の日も自宅から修道迄の6kmの道を自転車で通った。又、その頃、故長沼健さんとメキシコ五輪(1968)を銅メダルに導いたドイツのクラマー氏が、2年続けて東洋工業に立ち寄った時、「森孝慈氏(高14回)、若山待久(高14回)のプレー・ボールキープ等々をみてもらったり、自分も指導方法、基礎的な技術、戦術を教わった」…云々。

下村幸男氏(高2回)プロフィール

1956 メルボルン大会代表に故長沼健さんと選ばれる。
東洋工業監督として5度、日本リーグ優勝。
全日本監督の2年間14戦8勝4分2敗(第7回日韓定期戦2-1で勝利を含む)

中高6ヶ年一貫教育、文武両道を掲げる修道では、今後も夏冬完全優勝があると信じ、高校14回生7人を含む修道イレブンの記録と写真を掲載します。

1961(昭和36)10月

秋田国体準決勝 修道3-0藤枝東
決勝 修道1-0浦和市立

1962(昭和37) 第40回全国高等学校選手権大会

準決勝 修道4-2宮城工(2-2で延長)
決勝 修道2-0山城(京都)(超高校級釜本がいた)

修道は山城を無得点に封じ第40回記念大会で頂点に立つとともに、今期の2大タイトルを獲得。



1962年1月2~6,8日 修道高メンバー

GK 坂井忠昭	HB 岡平勝郎	C 吉田 浩
FB 板村正昭	岡田良雄	菊田良男
菊崎 賢	森 孝慈	中村 勤
	FW 田中求平	若山待久

写真『修道蹴球のあゆみ』修道サッカーOB会編より

今子 正義(高7回)



原爆後の高校サッカー王国広島栄冠『修道高校 完全優勝への熱戦記』という表題の冊子が、2012年3月に修道サッカーOB会・14回生一同により発刊された。

これは、1961年(昭和36)10月・第16回国体、1962年(昭和37)1月・第40回全国高等学校選手権大会で連覇して2大タイトルを獲得し、初の完全優勝を果たした修道高校の下村幸男監督(高2回)、選手諸氏の協力を得て、森孝慈氏(高14回)への追悼も兼ねて著したものである。

私は、その冊子の「あとがき」で——最後に修道の幹部の方や修道同窓会の方々にお願いしたい。修道、そして日本の英雄である『下村幸男氏と森孝慈氏の肖像プレート』を修道学園の校内に掲げて頂きたい——と記した。

下村幸男氏は、昨年(2015年)9月10日に、第12回日本サッカー協会の殿堂入りされ、東京の文京区御茶の水にある日本サッカーミュージアムに肖像レリーフが展示されている。

その折り、下村幸男氏は日本サッカー協会から贈呈されたご自身の肖像レプリカを母校に寄贈したいというご意向があり、修道学園にとって、とても名誉なことなので田原校長は快諾された。

それに加えて、完全優勝のメンバーだった岡平勝郎氏(高14回)の取り計らいで、2006年に殿堂入りし、自宅に秘蔵したままであった故・森孝慈氏のレプリカをセットで掲げることになった。

修道学園(中・高)の本館ロビー玄関には、右側壁いっぱい平山郁夫画伯の「安芸の小富士」の絵が掲げられているが、正面のガラス棚には修道が表彰された数々の優勝カップや賞状が飾られている。

その一番目につくところに、日本代表として活躍されたサッカー界の英雄で、わが修道学園の至宝であり、誇りとする下村幸男氏と故・森孝慈氏の肖像レプリカが安置された。

長年の夢が実現したのだ。岡平勝郎氏から吉報と写真が届き、私は心のなかで何度も快哉を叫びながら祝杯をあげた。

修道学園に来訪される修道関係者には、お二人の肖像レプリカに目を留めて頂くことを切望してやまない。

人物往来



ハーン研究の礎は
修道の授業
元英語科教諭 風呂 肇(高8回)

昭和十三年に生まれた私は、昭和二十八年に高に編入学しました。サッカー部が国体で三度目の全国優勝を飾った年です。早稲田大学卒業後母校の教壇に立ち、定年退職まで英語教育に身を捧げました。その後は比治山大学で非常勤講師を勤めました。

高校時代大学入試の準備にラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の作品を読んだことや、学生時代東京の雑司が谷霊園(八雲や漱石の墓あり)の傍に下宿していたことなどで、自然とハーンに親近感を憶えていました。

一九九〇年松江でハーン来日百周年記念のイベントがあり、それ以降ハーン研究に熱を上げる日々となりました。国内外のハーン緑りの地を訪問したり、ハーン研究の先達から数多くの指導を受けました。ハーンの生誕地ギリシャやアイルランド、アメリカ(シンシナティ、ニューヨーク)、カリブ海のマルティニークも訪れました。二〇〇〇年ギリシャから帰国した後、「広島ラフカディオ・ハーンの会」を立ち上げ、以来毎月一回の例会を楽しんでいます。来年四月には

二〇〇回目の記念例会となり、その際ハーンの次男巖氏の長男である稲垣明男さん(横浜在住)にご講演を頂こうと計画しています。

高三時私のクラスで卒業した土屋定之君(二十四回生、文部科学省事務次官)が日本経済新聞の「交遊抄」で私のことに言及したので、四月二十五日同紙の「文化」欄に私の拙文「小泉八雲知られぬ面影」が載りました。お蔭で「広島ラフカディオ・ハーンの会」の認知度も高まり、国内外から反響がありました。東大でのハーンの教え子達が広島高等師範学校や旧制広島高校で教鞭を執るなど、広島にはハーン緑りの人物や場所が存在します。ハーン来日のきっかけを作った服部三氏も広島県知事になっています。有名な「怪談」のみならず、ハーン作品に親しめば、西洋に偏らない彼の寛大な心や先見性に驚きます。人間の生き方を謙虚に考える時、ハーンの言葉は我々に大いなる勇気と示唆とを与えてくれます。修道の校是「敬」と共に、ハーン研究への礎を与えて頂いた高校時代の恩師、英語の授業などを懐かしく思い出す昨今です。

祝・オリンピック銀メダル 山縣亮太選手(高63回)



御報告と御礼

このたび出場したリオデジャネイロオリンピックは銀メダル獲得で幕を閉じることができました。この場をお借りして皆様にお礼と大会報告をさせていただきます。

本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

結果は100m 予選10.20 2位通過、準決勝 10.05 5位 となり、惜しくも9秒台・決勝進出の目標は果たせませんでしたが、出場日本選手の中では最高の成績を残すことができました。

また、準決勝で出した10.05は自己新記録であると同時に2大会連続でオリンピックでの記録更新となり、ロンドン→リオデジャネイロでの歴代日本人最高記録に引き続き、リオデジャネイロ→東京までも日本人最高記録が決定しました。計8年間オリンピック100mの日本人記録となります。

続いて4×100mリレーですが、予選を37.68で通過。これは日本新記録及びアジア新記録であり、ほんの数分前に中国が出したアジア記録を塗り替え、アメリカに次ぐ全体2番目の記録での決勝進出になりました。結果は37.60の新記録で銀メダル。両レースともに1走をつとめ、スタートでチームを勢いづかせる原動力になったと思います。

繰り返しになりますが、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。そしてこれからも応援、どうぞよろしくお願い致します。

山縣 亮太(高63回)



号外 雄大な大往生や

大の字の眠る山

母よりも先を逝く親不孝の冬將軍

今年も藤田正明君(旧修中30回)を賢兄と慕う修道高OB有志の集い「五日会」の期一会を予定していたが、正明君の長男の雄山君(修高20回)の前広島県知事としての計報が師走の日本列島を走った。それで雄山(敬称略)を取り上げざるを得ない思いに至る。雄山は拙者の竹馬の友正明君(故元参院議員長)の長男で、身内の子のように悲しむ。涙の絶えないほどの極みに陥った。

平成27年(2015)年の12月18日朝、県庁マノOBからの電話で雄山の急死を知らされた。悪夢だろうと思ったが、東京の内閣府勤務の甥坊から「夕刊に藤田雄山前県知事の死亡記事が載っています」との連絡で確認納得。母の篤未亡人に先立つ親不孝の見本となる。

「藤田雄山」…。その姓はごく普通であるが、雄山とは、なんと雄大な名前だろう。身長186センチに似合うと言え、それまでだが、その名づけ親はいったいだれなのか?

「雄山さん、貴君の名は当方が家伝の芸号の山字を誰の許可を得て盗用したのですか。迷惑ですよ」

そう、冗談めいて聞いた。だが仁がご座る。尺八の名人で、広島県那覇界の巨匠・人間国宝の島原帆山師匠の苦言である。

その島原師匠の苦言、藤田定市翁(故人・株フジタの創設者)が孫の雄山の名づけ親。

暴れん坊退治に途方の水鉄砲

山にはオスとメスとがあり、雄(オス)山のようには雄々しくあつて欲しいとの願い。その意を込めた名と聞いている。原爆ドームが崩れながらも、悠然と立っている姿と重なる。ドーム同様威厳を保つて欲しかった。

その雄山が2歳のころ、両親の正明&篤夫

妻がアメリカへ留学した際、母方の実家・大原博夫県知事公舎(広島市南区皆実町)へ預けられた。

当時の雄山は腕白坊やで、隣の秘書課長公舎との間の板塀の下をくぐり抜けて侵入、竹の棒切れで畑を荒らし回って、秘書課長夫妻を困らせるという暴れん坊だった。

その暴れぶりは、付近の家々にも及び、苦情が知事専用車のドライバーにまで達し、県政記者の拙者に相談して来たが、雄坊の体を縄で絞めて外へ出られないようにするしかなかった。これも人権侵害で出来ず、雄山の独壇場ともなつて、暴れの範囲も広がるばかり。

その被害者第1号の秘書課長は約30年後の昭和55(1980)年1月、雄山の結婚披露宴のテーブルスピーチで、次のように語って満場の列席者をドツと笑わせた。その秘書課長は庄原市の神主さんで、話し方は拔群だった。祝詞もどきの調子である。

「休日の早朝、こちらはまだ眠っているのに、裏口から入つて来られて誘われました」

雄々しくも衣鉢を継ぐや装う山

続けて申さく…

「カチョーサン、アンビマシヨと呼び掛ける可愛い坊ちゃんでした。目に入れても痛くないほどの候でござりました」

その雄山は昭和39(1964)年、父が参院広島県選挙区に出馬、同じ選挙区の修道高校へ入学。休憩時間に机と机の間を八艘飛びをするほどの腕白少年に育つてた。それを見つけた体育の先生に叱られ、殴られる。

「いくら国会議員の息子でも許せぬ」

その先生も前記の披露宴で、こう祝辞を述べて新郎を持ち上げた。

「教え子2万人のうち、最高の名前は雄山という文字と確信しています」

皆さんは上手者で、えーのえーのばかり。雄山の腕白ぶりを披露願ったが、みな遠慮?

その雄山と拙者との初対面は、雄山が生まれて半年目の昭和24(1949)年秋である。柔らかな日差しを浴びてスヤスヤと眠っていた。拙者が東京読売新聞の記者時代のころ

で、本社へ出張した折のことである。再会は、雄山坊やが知事公舎に委託?中に県政記者クラブの1員として知事公舎に取材に行ったとき。

その腕白小僧…これは失礼?いや暴れん坊が広島県知事に当選したとは夢のようである。いまだに信じられないが、自民党分裂選挙という厳しい戦いは雄山をより大きくした。

カエルの子披露宴に出馬の笑顔

その名よりも雄々しくなつて欲しい。当の選挙は「雄山自身が戦い取つたものだなあ」という実感が次第に湧いてくる。

3度目の出合いは昭和50(1975)年の冬。広島市長選の直後だった。荒木武候補(旧修中24回)が自民、民社推薦で大原亨候補(社会・共産推薦)を破って初当選した直後、拙者が雄山の父、自民党県連会長・正明君の政治傘下に馳せ参じ、城代家老として東京の藤田邸へ参上。荒木選挙の秘中の秘の裏話を面白おかしく講釈した。それを父の横で興味深そうに聞いていた雄山。

その顔が紅潮、輝いて見えた。頼もしい限り。ひよつとしたら、近い将来に父の衣鉢を継ぐのかなあと、心強く思つたのを覚えてる。振り返ってみると、カエルの子であった。それから4年余の歳月が流れる。東京で雄山が華燭の典を挙げた。その年が明けて間もなく、正明君から電話…

「広島でも披露宴を開くべきだろうか」

「答えはABCの3つがある」

「そのABCを順に聞きたい」

「Aは雄山が将来、政治家になる気があれば…(絶対)開くべきである」

「次のBは?」

「政治家を志す気が(絶対)になれば開かなくてよい」

低き背や愛に比例せぬ短き日

「それじゃあ最後のCは?」

「出馬の気の有無が不透明の場合は安全バイとして(絶対)に開いておくべき」

双方の意見は完全に一致、広島でも来賓多数を招いた。今それを見ると、効果抜群!雄山の未来を開くには持つて来いの(絶対)な場面!東京では大平正芳総理が媒酌人。

広島では新婦側の筆頭来賓・灘尾弘吉先生(元衆院議長)ご夫妻が介添人として高砂のヒナ段に就かれ、余興には前記の「五日会」の有志らが子供会から寸借の神輿を先頭に練り歩く。先導は木造り節をうなる菅森君(藤田広島事務所)

会場が突然の真暗?しばらくして点灯!神輿に乗っている雄山の笑顔がクローズアップ!みんな思わぬ演出に、あつけに取られて大喝采!

あら、こで青天の霹靂!花嫁の背丈が極めて低いじゃないか。夫唱婦随なんて論外である。雄山は平素から、自分の嫁さんは背丈の高いのが第1の条件と言っていた。それが真反対なのを雄山に詰問すると…

「愛は背丈に比例せず、関係しません」

その嫁さんは、佐藤製菓社長の1人娘で脚が短く背が低い。同製菓の(株)は上場している、日々の株価に上下はない。そんな会社経営者の令嬢で、新聞の(株)面には全く無頓着。

雄々しくも初陣飾る菫浦太刀

背丈の高低は問題ない。配当は全部自分の袖の下に見え隠れ。

それから3年半の後の昭和57(1982)年夏、雄山は父の秘書に転身、政治家への第1歩を踏み出した。世は無常である。正明君は参院議長に登りつめたが、2年後の63年9月に病魔に襲われる。脳梗塞に崩れた。

雄山は翌年夏の参院選に父の後継ぎとして出馬。消費税に反発する世情の真つただ中の逆風だった。幸い定数2名で、1位を社会党に譲ったが、2位に甘んじた初陣を飾つた。定数1の選挙区では自民党の大物の(族)議員が続々と並べたの討ち死にだった。これが雄山に味方してくれた。ベテラン議員落選という自民党の不運が雄山には幸運?自民党参院議員は過半数割れの苦境にあえぐ。それで、雄山は当選早々から重要な難しい

任務に就かされたのである。父の参院議長秘書として院内の舞台回しについて、普通ならばできない勉強を続けていた。国会運営対策についても父から受け継いでいる。初めてバッジを着けてからも国対のあれこれは、すでに知り尽くしていた。先輩議員から重宝がられるほどで将来を嘱望されかけていたはず。これからという未来だった。そこへ降って湧いたのが雄山に知事選出馬の打診である。

迷い路も途方に暮れて遠花火

突然の誘いに迷う。竹下虎之助知事が次期知事選に不出馬を表明。

それは平成5年6月の県議会直後で、雄山は地元国会議員と連れ立って、ある官僚OBに白羽の矢を立てて、立候補を口説いていた矢先だったからだ。ミイラ取りがミイラになった格好。ミイラとて死んで花散るわけにはいかない。雄山にはまだ自分には参院議員として仕事をしたいことが多く残っていた。

本論に戻る。雄山を県知事に担ぎ出せる地元県議会有志団が満場一致で決議。雄山は悩みに悩む。余りにも突然の話である。迷いも手伝って速答しかねていたが、衆議一決の地元県議団が大挙上京して来て決断を迫った。

雄山が出馬を表明したのは選挙前1か月。それからは二気千里の追撃戦。対抗馬は県議2期目で、弟（衆議院6期）とともに準備万端のベテラン。そこへ前県教育長が割り込む。雄山候補の票減らしとも考えられた。

兄弟軍団と競う公約や天高き

三つ巴の混戦である。救いは新生党の地元国會議員2名の推薦を得たこと、対抗馬との自民党推薦に勝った2点だった。

投票1週間前、雄山の眼が輝いて見えた。こう自信のほどを述べる。

「当選圏に入りました」

「その理由は？」

「個人演説会で広銀マンがバッチを裏から

表に変えて来るようになり、選挙カーが中電本社前を通ると、窓を開く様子が感じられるのが、やる気を増します」

1万人集会も思惑通りに成功。これはいけると胸を密かに下ろしたのは投票日の1週間前。敵陣のジウタン爆撃的な無差別戸別訪問には口が閉じられなかった。諸々の紙爆弾とゼネコン攻撃には、柳に風で押し通した。

相手のペースには乗らない。これが影響し得たのか、次点に10万票も離して大勝利！

ちょうどそのころ、心の古里・早稲田大学の同窓会から卒業50年目の「ホームカミングデー」の案内を受け取った。広島空港（広島市西区観音）発最後の1週間前（現三原市の日曜日の朝イチに乗って、日帰りです。大隅講堂でのセレモニに出席。キャンパスで色んな会が持たれていた。世間を皮肉る大隅精神に賛同、川柳の会を選ぶ。

卒業して50年その半世紀を反省す

一句をひねる。住所を書けと言う。拙者の句はいかに。季語ある記の五七五にした。こうである。

「校庭を出てはや半世紀反省す」

「校庭を出」は卒業の意の季語。当時は9月が3学期、新学期。

1か月後にパンフが郵送で届く。開いて驚く。拙者の作は筆頭に載つてくれないか。森山は50音、いろは、ローマ字順でも終わり近くに当たる。それがなぜトップに座っているのか？ここで腕を組んで考えてみる。顎は出さぬ。

「下手な考え、休むに似たり」

「皆の考えが同じということ、誰も本当によく考えていないことに通じる」

「そう言い切った名訓がある。」

ここは我流で押し通すことにする。その我流は独り善がりではない。今までの経験を生かした力説？である。反省を重ねた尊い人生航路の羅針盤で方向を決める。それには船長と舵手との呼吸が合わねば座礁する。

左右中央いずれをとるか、操舵の手加減で

決まる。そうだ。操舵手に学べば航路は乱れない。その経験を引き継げばよい。語りも川柳も我流でここまで乗り越えた。今後も我流で航海する。後悔せぬように皆さんに公開する。

卒業半世紀その50年を反省す

同窓生の句と比べてみる。それらを十二分読み直して考え、何度も読み返した。2番目に載つて作品は「満州で鉄砲を担いで（都の西北）を歌った」。当時の学長の句は？「食べる具がなく、梅干しの絵を赤く描いて、おかゆを飲み込んだ」とある。いずれも戦時中の殺伐か、寂しい句ばかり。

それに、作品の上に「1席、上中下とか優や秀」の選別はしてない。これぞ早稲田魂の人に上下の差別をつけない万人同格の精神と推考、うぬばれてどうにか納得した。拙者の作にはどう見ても品格がある。当然トップと踏む。これに五七五を足すと、大隅老候をもじった狂歌となり得る。

「校庭を出てはや半世紀反省す。おおくまなびし、おおくま老候」。

Q 多く学べば学ぶほど、将来の仕事の基本となる。

A 自分の未来も明るく開けて来る。「困難な仕事でも（できるか？）と聞かれたら、（もちろん、できます）と答えることだ。やり方はそれから懸命に考えればよい」（セオドア・アルーズベルト／元アメリカ大統領）

たとえ最終的に失敗したとしても、それは大切な経験になる。精一杯の努力をした結果であれば、マイナスではなくプラスの評価を得られるだろう。

涙で語る雄山の訃報や月の牙ゆ

語りを本論に戻す。

雄山は今、脂の乗り切った壮年知事となつた。8年後の21世紀には52歳の働き盛りを迎える。その最大目標「日本一住みよい県」を目差し、祖父・大原元知事筆の色紙の「但見花開落不言人是非」（ただ花の開落を見て人の是非を言わず）を知事室に掲げ得る人物に

早くなつて欲しかった。二歩前進、二歩後退で前進の例を見せてもらいたかった。

「前例がないからやってみよう」（糸川秀夫／国産ロケット開発者）

Q 役所は全て前例の引きづきですね。

A 前例は破られるためにあるのに不思議。

話題を本論に戻す。雄山と別れ、数十年の歳月が流れた。奇しくも広島市のRRホテルのプールで出会う。週1〜2回のプール歩き。雄山は背が高く、水中でもヘソが出ていて、直ぐ分かる。そうした出合いが数年間も続いた。平成27（2015）年12月11日、同プールで丸坊主の雄山に出会う。

「どうして頭を刈って丸くしたんね？」

「抗癌剤のお陰です」

「どの癌？」

「大腸です」

「大腸癌なら大丈夫！」

「養生します」

これが雄山と拙者の最後の出会いとなろうとは思わなかった。

地味だが幅広い仕事や夜学の門

そこで、雄山の知事としての実績を思い出す。全国で最も若く、長い知事として登場し、4期16年を地味だが、仕事の鬼だった。そんな覚悟で幅広く住み良い県の生みの親になる。警察官も毎年増やす予算を組んでくれないか。犯罪のない平和で明るい社会を目指す。広島空港（三原市）の滑走路も拡張。県水泳連盟や田畑改良連合会長、県猟友会長役を遂行。日赤など数多の役職を次々とこなして来ている。県予算も円刻みに止めていた。

「円刻みでもものは考えなければならぬ。」

円です、勝負は（鈴木修／スキ会長）

Q 気前がよければ、自滅する。

A 気前のよさは円勝負に負ける。「本当のリーダーは人をリードする必要はない人に従うことを知らない者は、良き指導者になりえない」（アリストテレス／ギリシャの哲学者）

Q 世論に従って、自分の道を邁進する。

A よきリーダーは、進んで模範者たれ。それが、雄山は人生を歩き疲れたのか、先に逝ってしまった。その訃報の電話が入って来て身の回りの整理も止めざるを得なくなる。電話の鳴りつ放しで、通夜葬儀についての問い合わせが相繼ぐ。香典や生花の出し方にも質問が続く。

天国では雄々しく暴れぬ運動会

無念だが、無常の世に慟哭する。通夜も家族葬儀にも顔を出さずに、そと見守り、拭き切れぬ涙の眼を閉じた。そのまま折る成仏。4月末の三滝墓園の納骨には参加の積もり。また会おう。現世で再開したいのだが、無理。毎年5月27日の正明君の命日には三滝墓園で紫煙の輪を囲んで、お互いに吸いやすいこをしてる。雄山よ、これからは3人で吹かそうじゃないか。

そこは雄山が父の遺骨を入れるのに建てた墓所。雄山もここが死後の住所になった。遙かに手招くと、安芸の小富士が海に浮かぶ。その手前に霞む母校の修中高校。ここから下に藤田本家の墓地がある。そこに安眠中の祖父が招いておられる。

「うちに来んさい。極楽では上下の差もなく、いつも一緒ですけんね。暴れんさん」

墓の横のローソク立てに置いた缶P3本に着火。3人で紫煙を吹かす準備は万事OK！

雄山の院號「賢誓院釋雄峻」

この院號は「誓う賢者の俊敏な仕事」居士。その刻みの墓誌をなでて、涙で合掌。

「さようなら。じゃあ、また、と言っておう、また会えるのだから」(マークトウェーン／アメリカの作家)

Q 再会天国になるが、成仏して欲しい。A さようならは、また会えるあいさつ。

雄山はれを建つ墓に入る春二番

それが夢に変わった。父の次の春の2番目に納骨。父と一杯！飲める酒席が整った。

「安眠は、心労の最上の療法である」(セルバントス／スペインの作家)

Q 眠れ、眠れ、疲れを癒せ。目覚めよう。

A 安らかに眠れぬ三滝墓園の花見酒。この墓を立てたとき、雄山は県知事として雄然と汗を握っていたところである。

今度は自分も入って、父に再会したわけ。その死は4期16年の知事職の疲れが原因じゃないかと惜しむばかり。仕事、仕事だった。

「世の中でいちばん寂しいことは、する仕事のないことです」

この教えは雄山の母校・慶応義塾大学の創設者、福沢諭吉大老の遺訓。

Q 仕事が暇になると、喜ぶのが普通です。A 暇を喜ばないで、寂しいのが本当のプロフェッショナルでしょう。そうでないと、疲労の原因になりかねませんね。

「疲労は最大の枕である」(フランクリン／アメリカの政治家)

Q 疲れても寝るのが一番の良薬になる。A ただの枕より膝枕を望む。贅沢かな？

夫婦についての「教え」を雄山に申し伝えよう。恵子未亡人に告ぐ。一人になっても心には雄山が生きている。寂しくなったら、墓掃除に行くべし。

日脚伸びチョコキンと増える貯金通帳

「夫婦とは二つの半分になるのではなく二つの全体になることだ」(ゴッホ／オランダの画家)

Q これは雄山夫婦と共通面がある。A 外国では夫婦相和し、互いに「ベターハーフ」と呼び合っている。日本では「おおいおい」

「はいはい」になる。

「夫婦は天地の如し。天は地を包み、地は天に抱かる。ゆえに夫は外を営み、妻は内を調う」(藤原惺堂／儒者)

Q 夫は出稼ぎで、当分は帰って来ない。A 妻は節約、チョコキンと貯金を増やす。

「男と女とがたがいに相手を箒と、味噌汁と、乳母車とし、貯金箱とし、ミシン機械とし、日用の勝手道具と考えるとき、もはや必要から別れがたく、夫婦の愛の愛情が生ずるものである」(萩原朔太郎／詩人)

Q 夫婦の日常生活を、そんなりにきつちり成し遂げれば、家内安全です。雄山はそうだった。

それがなぜ早死にしたのか。無念至極である。

A 夫婦生活は家庭内の分業で成り立つ。お互いの理解で協力すべき。一も二もない。三四と三段跳びで雄山は四の死に旅立った。

「決してか八かというきわどいところまで進んではいけない。それが夫婦生活の第の秘訣である」(ドストエフスキー／ロシアの作家)

Q 夫婦の分業を互いにこなせば家内安全。

出戻りは娘でなく返り花

他人の出す口はない。馬券など賭け事に手を出すと？夜逃げの支度？税務署に先駆けに！

A 馬券は家庭の仮定を夢見る家庭の崩れ。

「君が女房を持つているということは、つまり女房が君を持つていることだ」(ガブリエル／フランスの版画家)

Q 夫婦互いですね。助け合いの見本。A 立派な家庭は、立派な子の生産地。

「夫婦は体だが、ポケットは別」(イスラエルの教え)

Q ポッケは差し繰りの隠れ場所。A 預貯金を引き出して、小銭の音。話題を夫婦二人の所産子供に移す。

「息子は、妻をめぐるとまでは息子である。しかし、娘は母親にとっては生涯、娘である」(トマス・ウェラー／イギリスの警句家)

Q 出戻りの娘は、もはや娘ではない。嫁入り先が生の住み家たるべし。

A 息子は結婚すると、妻の実家が自分の実家となりやすい。自分の実家が遠慮して歓迎しなくなるからだろうか？

「子どもは、幼い時は母親をしゃぶり、長ずれば父親をしゃぶる」(イギリスの教え)

Q 末子は母の乳房を慕う。甘えん坊。A 長男は父の財布を狙う。虎視眈眈。遺産の見積りにも取り掛かる。税理士に気を配れ。

子に語る母の経験夜なべの灯

「人生の悲劇の第二幕は、親子となったこと

に始まる」(芥川龍之介／作家)

Q 初産はその子の第一幕だろう。A 末子の終幕の暗転が気になる。

「恋しきは親父のスネと母の胸」(日本の教え)

Q 青年は父のスネを愛し、自分のスネを抱く。少女は母の胸を探る郷愁…

A 幼い子は母の乳房を愛す。次の子が生まれるまで握っている。手放さない。

「若鳥は母の巣の中では死なない」(カメルーンの教え)

Q 巣立つた子は、世間の敗れ果に崩る。A 老鳥は子鳥の巣で死ぬ。母子の旅情。

「すべての夫は、似たりよつたりである。しかし、あなたが彼らを区別できるようにちがつた顔を持つている」(出典不明)

Q 夫は、それぞれ違った希望を持つ。それで思いは外には出さない。思い通りに成し遂げ、それで自己に満足している。

A 似た者同士の子に母は困るだろう。パンを同じ子に二度与える誤算を繰り返す。もつた子は黙っている。何遍ももつた。それでも済まし顔。三つ子だつたらどうだろう。どれが長子か確認できぬ。厄介な場面にならないだろうか。心配が無用。あとの二人が黙っている。

父の価値い加減に量る下弦の月

「親であることは一つの重要な職業だ。しかし、いまだかつて子どものために、この職業の適性検査が行われたことはない」(シヨー／イギリスの劇作家)

Q 親という仕事は、おやや適性調べを受けなければならないのか。

A 不適正な母は、受胎告知を頂けない。「よそにくれてやった娘は、山に射こんだ矢のようなもの」(モンゴルの教え)

Q 射こんでも愛情が実家に跳ね返る。帰つてその矢は、重なる家に立ててくる。

A もう実家へは帰れぬのが気になる。「人の両親ほど最も自然にして最も好適な教育者はない」(ヘルバルト／ドイツの教育学者)

Q それと同じ親孝行こそ先祖伝来の家

宝。

話題を父に絞ろう。父よあなたは強かった。一家の柱として毅然として居られた。

「父のいましめは、みなわが身の幸」(「茶／俳人」)

Q 負けるな父のここに在り。幸は懐に……

A 母の警告は、くず箱に入れてしまおう。

「父親の価値は父親が死んだあとでわかる。塩の価値はなくなつてみると、わかる」(「タルミ族の教え」)

Q 父の手柄の高低はその死後に分かる。母の味加減はその舌の加減で分かる。ごまかすことは出来ない。ゴマをすつてもダメ。

木の上に立つて子を見る三光鳥

A 塩田で汗かくプロの手加減により塩の味が変わる。現在は塩田ではなく縦屋根ムシ口に海水を垂れ流して作っている。

「自分の息子から手をふり上げられるような父親にはすべて罪があるのだ。自分に向かつて手をふり上げるような息子をつくつたという点において」(「ベギー／フランスの作家」)

Q 父親を殴るような息子に育てたのは母の責任になる。いや、父も引責すべきである。両親の良心次第で子どもは立派な大人に成長する。おや！「親」という字は「木」の上に「立」って「見」と書く。

A 父の気持ち逆撫でする息子には罰が当たる。母はその子を愛し過ぎるな。過ぎたるは半分には及ばない。木の上に立つて遠くを見なさい。人間が大きくなりますよ。

人と神との関わり合いを考えて置かないと、どうなる？。それを父の威厳について気をつけて見よう。

「人格神とは心理的にたかめられた父親の存在に他ならない。父親の権威が崩れ去るや否や、若者はすみやかに信仰を失つてゆくのだ」(フロイト／オーストリアの心理学者)

本論も仕舞いに近づいた。「どん底」から抜け出す。ゴールキー／ロシアの小説家の戯曲『どん底』を巡って、世界の古今東西最も短い電報のやり取りが交わされた。それを紹介する(カッコ内は翻訳)

「？」(自著の評判はいかが)

「！」(素晴らしい。増刷増版)

海の日や山の日休みに生みの親

日本の新聞業界の編集局では昔から普通に「？」を耳垂れ。「！」を雨垂れと呼称している。いずれも斜めに傾いているの由来？。お分かりかな？。分かれればOK！

閑話休題……

「どん底」から浮き上がろうとしておられるのは、雄山の母笏夫人。東京のある施設で休養を続行、速い退所を祈つてやまない。

本日は7月18日。「海の日・海の記念日」である。「山の日」も今年夏に(8/1)休みになった。雄山の生みの親なる笏夫人や休養足りて盆の海の静まる音戸の瀬戸。

「海の水はこの地球の心臓の血である。太陽や月に元気づけられ、気を静められ、潮は地球の静脈を収縮し、拡張している」(ヘンリー・ベストン／アメリカの作家)

Q 海の水は心臓を走る血液か？

A 血は地球の収縮に関係を持っている。

「海は女性である。海は驚異である。そして海のもう一つの名前、それは運命」(エドウィン・マーカー／アメリカの詩人)

Q 女性に驚異を抱いている？

A 未亡人の胸囲は偉大である。

ここで服する。

「たばこよ。汝のためなら私は死以外の何でもしよう」(ラム／イギリスの詩人)

長話に終わりマークの敬老日

Q たばこよ、逃げないで欲しい。

A 臨終に唇をうるおす水の代わりに紫煙の輪！私怨を捨てての支援に、殺さず生かせ。

「二人殺すと殺人、千人殺すと英雄」(インドの教え)

Q 映画では何人殺しても無罪である。

A 中国やインドなどでは独立のために何十万人／何百万人を殺しても構わない日々が続いた。気の長い嘆息である。長語りも終わりに近づいた。

「けわしい丘に登るためには、最初にゆっくり歩くことが必要である」(シェークスピア／

イギリスの劇作家)

「ゆつくり急げ」(ローマの初代皇帝)

Q 急がばまわれ。

A せいてはことをし損じるですね。そうです。急いで長い語りになりました。茶番劇に終止符を打ちます。

次は(仁)と医についてを書く予定です。



3人で吸いやいこ

輝星 宇宙へ還る

田中 正晴(旧中38回)

倉敷市松島

元川崎医科大学学長 勝村達喜君

昭和4年生まれ。三原市出身。昭和17年春、広島私立修道中学校入学、合格発表250名中、4番の好成績で入学した。当時は成績はすべて公示され切磋琢磨させられていた。在学中も好成績で、いつも級長をつとめ長身白哲、性格温厚イケメンであった。3年の時、学徒動員で三菱広島造船所で戦時標準貨物船A型、特攻兵器回天の絞鋸部でリベット打ちの重労働に耐え15歳の青春を燃やした。昭和20年3月海軍兵学校78期生(日本海軍最後の学生)で佐世保近くの針尾分校へ入学。兵学校と言えは江田島だが当時は士官大量養成のため針尾分校ができていた。それで幸いにも原爆には遭遇しなかった。昭和20年8月15日終戦。復学して岡山六高に学び、岡山大学医学部卒。胸部心臓血管外科が専門。昭和36年心臓の毛細血管の縫合技術で米岡バーモント州立大学で2年間学びプロ



勝村達喜君

フエシヨナルとなり、医師生活20年間に11,000人の心臓患者を救った。テレビで医師が双眼鏡のようなものを装着して細かい手術をしている、その走りだ。昭和49年、川崎医科大学創設者川崎祐宣氏に請われて、川崎医科大学胸部心臓血管外科初代教授。昭和59年付属病院長(54歳、病院長を11年歴任。外来の診察、心臓の手術、学生への講義、病院経営の困難、難問をこなし、ロータリークラブに所属して地域社会にも貢献する4刀流、5刀流と敏腕をふるって活躍した。次いで川崎医科大学の学長に就任し、次世代を担う優秀な医師を育て、医師国家試験合格率が私学であるのに常に上位(3位)にあるなど名声を高めた。その功績を認められて平成10年、山陽新聞賞(学術功労)、岡山県文化賞(学術)を受賞し、学長を4期8年務め退官。平成18年に瑞宝中綬章(76歳)も授かる。(追悼授位四位)

宇宙から派遣されて、多くの人類を救った心臓外科の先駆者ゴットハンドは、目的を果たしたのか、平成28年4月、輝星となつて宇宙に還つてしまった。享年86歳。

同級生、同じ組、勝村心臓外科の患者 田中正晴

修道の思い出

奥本 博(旧中39回)

はじめに

私は昭和18年4月、あこがれの修道中学校へ入学をしました。すでに日支事変に続き、大東亜戦争が昭和16年12月に勃発しており、昭和17年後半ごろから戦況が不利になりつつありましたが、それでも1年生のときは通常どおり勉学に励むことができ、時

折、勤勞奉仕に出かけておりました。2年生になると更に戦況悪化にともない、9月からは大多数は広島陸軍兵器補給廠、一部の者は合同製鋼所へ学徒動員で作業に従事しました。そして20年8月6日のあの原爆被災により私は多くの家族を失い、高齢の祖母と2人きりとなり、広島を離れて親戚へ身を寄せるため仕方なく転校をしました。戦後しばらくしてから、同期のみんなから、あの大変な時期にやむなく転校をしたのだから修道を卒業したのも同然だと、また同様な状況におかれた者数人にも声がかかり、同窓会に正会員登録申請をして頂き現在に至っております。修道中学在学中、またその後の大変な思い出や忘れられない記憶を以下に記してみました。(文中に旧字体を使用したところがあります)

修道中学入学

昭和18年4月修道中学へ入学したとき、クラスは5組あり私は1組で、1組から4組まではブルの北側の新校舎、5組は南校舎の西端でした。私たち袋町国民学校（昭和16年にすべての小学校の名称が国民学校と改称され、戦後復帰しました）からは11名が入学しました。

生徒心得

正式には「生徒ノ心得フベキ事項」です。登校するときは、定められた各所に集まり整列をして集団登校をしていましたが、途中教師に出会ったときは上級生が歩調とれ、〇〇〇先生に敬礼」と号令をかけ敬礼をすることになっていました。単独行動のとき教師、上級生に会った場合も敬礼です。新天地、活動寫真館、劇場、百貨店、飲食店などの立ち入りは禁止でした。昼間のボート遊びは許されていましたが、そのような暇はありませんでした。時計と万年筆を学校へ持参は禁止され、付けペンはよいため私はガラスペンを使ったことがあります。汽車、汽船、電車、自転車での通学も厳しい規制がありました。

身分證明書

入学をしたとき身分証明書を貰いました

が、校長名が吉田賢龍先生と印字してあるところを、当時の校長である國崎 登先生とゴム印で訂正してあります。裏面に有効期間は1箇年とあり、進級して新たに交付を受けた場合は従前のものを学校に返すこと、登校の際には必ず携帯をするよう記載してあります。私は当時、進級をしても新たに交付を受けない記憶はなく、そのまま常につけておりました。現在でも修道中学へ入学したことを誇りに思い、常に身につけて持ち歩いております。

末田泰造先生

末田泰造先生は私たち1年1組の組主任であり、英語を習っておりました。授業中、質問に答えられなかった者は、罰として床に座らされ、ときには机の端と背もたれの上へまたぐようにして座らせられた者もあり、足がかなり痛かったことと思います。いつも根鞭を持つておられ頭をコツンと叩かれる者もありましたが、それほどひどい叩き方ではなかったと記憶しております。先生はほとんどの生徒にあだ名をつけ、あだ名で指名されておりました。英語の授業中に cheese と言う単語が出ました。光田桂君に「お前の家にはチーズがある筈だからみんなに見せてやるために学校へ持つて来い」と命じました。当時は比較的珍しく、贅沢品でもありましたが、彼の家には職業柄それがあつたのです。次の授業の後、先生が言いました。「これはわしが持つて帰つて食べる」と。2年生のある日、末田先生から私に職員室に来るよう連絡がありました。職員室に入るときは入り口で「〇年〇組」〇〇、〇〇先生に用事があつて参りました」大声で告げることになっていました。先生の所へ行くと、そこに転校生が居て「東京からお前の町内へ引越してきた者だから、明日から誘つて学校へ来い」とのことでした。三瀬有策君でした。末田先生は八丁堀付近の電車内で被爆をして、同年8月28日亡くなりました。

5年生風紀係に依る説教

入学してしばらくしてからのこと、放課後上級生の風紀係一人が教室に来て、黒板に「今から話があるから帰宅をせず教室で待て」とチョークで大書しました。やがて数人の

風紀係がやってきて、かねてから修道生としてふさわしくない態度をとっている者と、目をつけられた者がこっぴどく叱られました。修道精神注入棒と書いた直径10cm長さ1mあまりの木の棒で叩いて、脅かされた者もいました。当時、汽車を利用して通学する者は各駅から市内電車を利用することができましたが、市内の者は特別の者を除いて、全て徒歩と決められていました。なかには、決まりを破って電車へ乗る者がいたため「電鐵前」の停留所のそばにあった防空壕のなかから風紀係が監視をしていて、大変叱られた者もありました。これが説教です。幸い、私は説教でやられたことはありませんでした。

チチヤスでの水泳事故

1年生夏、大野町（現廿日市市）のチチャス（現チチャス峠）の休憩室を借りて、その前の海で臨海学校水泳訓練が1週間ありました。最終日に対岸の宮島までの遠泳が計画されておりましたが、その前日に同級生の藤井（テツウ）君が行方不明になり、上級生が手をつないで海中を探し見つけましたが、亡くなっておりました。折角修道へ入学をして間もなくのことで可愛そうなことでした。そのため翌日予定されていた宮島への遠泳は中止となりました。

制服の白線

帽子は戦闘帽、制服はカーキ色で足にはゲートル(主に軍服用に使われ、足首から膝までへ巻き付けて使う带状のもので、中学生も使用することになっていました)を巻き、靴は必ず革靴と定められていました。革と言っても質の良くない豚革が主でした。学用品などの持ち物は黒色の木綿の風呂敷を使用すると決められていて、それを小脇に抱えて登校していました。靴は使えませんでした。1年生(2年生のとき、との記録もあります)の夏頃、修道生として遠くからでも他校の生徒と区別がつきやすいように、制服の袖口から10 cmのところに幅1 cmの白色の布テープを、ぐるりと縫い付けることに決まりました。

蛙の解剖

理科の時間に、梶山英二先生が蛙の解剖図を描いてくるよう宿題を出しました。私が蛙を捕つて来て三瀬有策君を誘ひ、絹谷晴昭君の家で灯火管制の明かりの下、蛙を解剖して3人が別々に二生懸命解剖図を描いて提出をしたところ「他人の画を写してきたものが3人おる」と叱られました。3人が同じ個体を描いたため、同じような絵になっていたからです。また、理科の授業で笹見幸雄君と組んで実験をして、ノートに記録をしそれぞれが提出をしたことがあります。これは当然同じような内容になっており、私はそれを保存をしていないため、後年、笹見君がコピーをしてくれました。

工作の授業で

工作の授業のとき、各自が木製の塵取りを作ったことがありました。数時限かけて作ったものを、山本四郎先生が仕上げとして電動鋸で全員の塵取りの前の角を斜めに切り落とすことをしてくれました。私の前の某君が切つて貰うとき、突然火花が飛びました。原因は丁度切り取る場所が何かの理由で割れていたため、彼が釘を打って手直しをしていたため、鋸がその釘に接触して火花が出たのです。当然先生にひどく怒られ、木槌で頭を叩かれました。木槌で頭を叩かれることは、いつもあることでした。

どぶ川

現在の学校の正門がある南北の舗装道路は、戦後しばらくまではどぶ川でした。北方の広島工業専門学校あたりからの汚い長いどぶ川を暗渠にしたものです。戦時中は中学でも軍事教練の時間があり、教官である配属将校に怒られたとき、数人がそのどぶ川の水で顔を洗うことを命ぜられたことがあります。私は目撃はしていなかったため詳細はよく分かりませんが、あまりにも汚いため指先で顔に塗るぐらいで、こまかした者もおるとのことです。また先般、篠塚信彦君と話をしていた、軍事教練で同じ学年の全員が講堂に集められ、配属将校の訓示があったことを思い出しました。そのときゲートルを巻いたまま床に座らされたため、足が痛くて大変でした。

勤労奉仕

戦争の激化で軍隊に召集される人が増えたため、後の学徒動員となる前は労働力の不足を補うために中学生の勤労奉仕が始まりました。可部町の品窮寺へ泊りがけで稲刈りの勤労奉仕、緑井の農家へ分散して泊まり込みで麦刈りの勤労奉仕、更には牛田の工兵隊での作業、矢野町での軍の防空壕掘りなどの記憶があります。この外いろいろな所へ出かけました。

学徒動員

昭和19年9月からは学徒動員（正しくは勤労動員令）により私たちは週1回の登校日を除いて、広島陸軍兵器補給廠へ作業に従事するため出かけました。太平洋戦争の末期になると、より深刻になった労働力不足を補うために、中学生以上の生徒や学生が軍需産業や食料生産に動員されることになったのです。昭和20年4月からは海田の兵器廠へ移りました。ここでは軍が麦飯の昼食を出してくれましたが、それでも空腹を紛らわすため大豆を煎って持つてくる者が現れ、分け合つて食べました。同年8月1日から元の兵器廠へ戻り、仁保町淵崎（現仁保橋西詰め）の兵器廠材木集積場である原爆に遭いました。8月6日兵器廠の広場でいつもの朝礼があり、将校が「戦争はますます激しくなる。みんな更に一層頑張れ」との訓示があつたばかりです。当日、休んでいた仲良しの金元 誠君は彼の家が元安川をはさんで産業奨励館の真向かいの中島本町であつたため被爆死しました。同期の一部は宮島町包ヶ浦の兵器廠弾薬庫へ行つていた者もあり、また可部線沿線及び横川、中広、白鳥、牛田方面の33名は当時の広島市楠木町（現広島市西区）の合同製鋼所に配属され作業中被爆をし、引率の高橋弥一先生を含め多数が大怪我や火傷を負い、八木忠彦君が亡くなり、当日休んでいた銅金輝男君、福島速雄君は自宅で亡くなっております。

日時計

生徒心得にある通り、時計の所持は禁止で

した。学徒動員先での休憩時間に持ち物検査があり、たばこをポケットに入れたりしてはいないかと、ポケットの底までひっくり返しての検査もありました。そのとき私はグリーコの景品で貰った日時計を持っていたが、景山英俊先生が、これは良からうと言ってくれました。その日時計の誤差は5分ぐらいで重宝をしておりました。

白い蛇のこと

同じクラスの三柝 積君は話し上手でいつも話題の中心でした。日本本土が、米軍機に空襲をされるようになった昭和20年の初めのある日、みんなに、大河の自分の家の近くの古老が「らくだ山（正式には黄金山）に白い蛇が出た。このことは近いうちに天変地異が起きるに違いない」と言っていたと話しました。そしてあの原爆なので、私はこのことが今でも忘れられません。もともと、岩国の白蛇のように家屋に住みつくとその家が栄えるとか、幸福や金運をもたらすとの伝承もあり、坪田幸雄君の場合は、蛇にまつわることで大変な幸運を味わつたと言っています。ついですが、我が家には毎年ツバメがやってくるのですが、その年は来なかったので不思議に思い家族で話し合つたことがありました。動物にこのような危険予知の本能があるのでしょうか。そう言えば、子供のころねずみは、家屋の火災を予知して事前に逃げ出すと聞いたことがあります。

学校防衛

米軍機による空襲、都市の焼夷弾攻撃が激しくなり学校防衛のため、現在の相生通りから南の者は、夜間に警戒警報が発せられたら学校へ駆けつけて、空襲に備えるよう命ぜられました。播磨屋町（現広島市中区本通）の私と紙屋町の絹谷晴昭君が学校から一番遠くでしたが、灯火管制の真つ暗闇のなかを2人で電車道を行って行きました。電車道を行く途中、万のとき車庫にある市内電車の被害を少なくするよう分散をするため、線路の両側を無灯火で轟音を響かせて走ってくる電車に遭遇したときは驚きました。学校へ到着

したとき、駐屯をしていた歩哨の兵士に銃剣を突きつけられて、「誰か？」と誰何されたことがありました。三度の問いかけで返事をしなければ銃殺されると教えられていたので、咄嗟に「学生です」と返事をして事なきを得ました。校庭にあつた数箇所の防空壕を更に補強をするため、柔道場から畳運び出し、壕の上を覆い警報解除を待ちました。帰宅をして朝になると平常通り動員先へ出かけて行くことを何度も繰り返しました。

平山郁夫画伯と原爆

あまりにも有名であり修道の誇りでもある日本画家の平山郁夫さんは、私たちの同期で3年生のときは同じクラスでした。落ち着いた控えめの平山さんで、図工の時間ですれぞれが自分の左手を鉛筆画で描いたとき、平山さんののはさすがに立派な出来映えであつたと記憶しております。原爆被災のときは学徒動員先の兵器廠から、平山さんを含め私たち一部の者は仁保町淵崎（現広島市南区）の材木集積場へ移動をして、作業に取りかかる寸前でした。あの閃光に続く爆風と爆音に、作業小屋の内にいた全員は、かねてから訓練を受けていた通り、とつさに眼と耳を守るため指で押さえ、地面に伏せました。爆心から約4 km離れていたため、負傷をした者はおりませんでした。平山さんは生家がある生口島へ戻り、原爆の後遺症に悩まされながら忠海中学校へ転校をしましたが、私と同様に修道同窓会に加えて貰いました。その後の活躍ぶりは皆さんご存知のとおりです。平山さんが修道のために創作された大作の「希望の光 安芸の小富士」陶板画が修道中・高等学校本館ロビーに飾られてあり、私たちはその陶板画レプリカを手許に持つております。残念なことに平山さんは平成21年12月2日亡くなられました。

被爆煉瓦保存記念碑

戦後、兵器廠は一部が広島県庁として使われ、その後、全部が広島大学医学部と付属病院となり、煉瓦造りの倉庫の取り壊しが順次始まったため、学徒動員で思い出深い煉瓦の

部を貰い受けるため小尻正俊君と2人で取りに行き、修道へ持ち帰りました。関係者のご尽力により「旧広島陸軍兵器補給廠の外壁煉瓦モニュメント」を校内の慰霊碑のそばに設置することになりました。平山さんが「歴史に生きた」と書いた碑文や、写真と説明板を配し、台座には旧広島市庁舎の被爆石も使用してあります。在学中、学徒動員中、お世話になりました景山英俊先生からもご出宝頂き、同級生有志が資金を出し合い完成し、平成5年10月除幕式を行いました。

修道三九会

戦後の学制改革により昭和23年3月に旧制中学5年で旧中39回生として卒業し、社会に巣立ったり進学をした者と、引き続き新制高校3年に在学をして昭和24年3月に新制高校1回生として卒業し、それぞれの道へ進んだ者がおります。私は「はじめに」の項にありますように原爆被爆の後他県の学校へ転校をし、その後広島へ戻り、しばらくしてから修道同期の正晶明雄君から同期会への誘いの連絡があり、入会をしました。この修道三九会とは旧中39回卒業生と高校1回卒業生の「緒の同期会」です。代々の会長や世話人のおかげで、毎年同期会を賑やかに開催し、その都度親交を深めております。これらの会員で別に東京地区在住の同期の者の集まりの「修道同期会」と学徒動員で合同製鋼所で被爆をした者たちの「修道八六会」、更に宮島線で通学をした者たちの「宮島線の集い」もあります。私は折にふれ、それぞれの会からの誘いを受けて参加をしております。

おわりに

いろいろと取りとめのない話となりましたが、同期のみんなが卒業をして67年を経た今でも、私は修道大好きで何かと繋がりを持たせて頂いております。余談ですが私の息子は高校28回、孫は高校60回とお世話になりました。私の住まいのある本通商店街でも修道卒業生が19名います。修道の益々の発展を願っております。

「修二会」報告

西田 頼信(高2回)

昭和20年に中学2年生、昭和25年高校2回卒迄の「修二会」生は、今年も8月6日に校内の慰霊碑に参拝し、裏に刻まれた同級生136名の名前を手でなぞりながら、悔しさと懐かしさをこめてお互いの近況などを語り合いました。

今年は申年...あれから71年、いよいよ最後の一周に差し掛かっています。が、未だに広島市のあの地獄図と心の芯部の痛みは消えていきません。



高校4期会 中学入学70年

皆川 孝一(高4回)

われわれ4期生は昭和21年(1946年)4月、終戦後初の入学生として修道中学校(旧制)に入学し、その時から今年で満70年が経ちました。毎年6月に開く定例総会・懇親会を、今年は「修道中学入学古希大会」と銘打ち、6月10日、82歳の元気な顔を合わせました。恒例の懇親会に先立ち、希望者参加による母校訪問、修道の歴史講義、先哲墓参が行われました。



入学した時は原爆投下からまだ8か月、体育の時間に校舎のガレキの片づけというような辛い時代でしたが、先生方の熱い教えと心を込めた慈しみによって、よく学びよく遊び、社会へ巣立ちました。そして、激動の20世紀後半を懸命に働き抜いてきました。

恒例の懇親会は17時から、国際ホテルの回転展望レストランで開催しました。出席者は24名、関東地区からも2名参加しました。出席者数が年々減るのは致し方ないことですが、顔を合わせればたちまち70年前に戻って歓声高らか、フリードリンクもまだまだいけるでえと。お開きの時間になつても歓談は尽きません。

希望者参加の母校訪問は午前10時半、田原俊典校長先生の丁寧なお出迎えをいただきました。現在の立派な設備は昔とはもちろん様変わりですが、校庭やプール、敬道館のあたりに昔の面影が残る懐かしい限りでした。続いて、元校長の畠眞實先生から修道の歴史に関する講義を受け、偉大な先人達の人材育成への熱く強い思いを知り感銘を受けました。

学内の食堂で学生気分の昼食後、藩校講学所の祖、寺田臨川先生と、私学修道の祖、山田十竹先生のお墓にお参りしました。梅雨時ながら晴れて良い天気にも恵まれました。

今後、各自が寄せた短文集の冊子「懐かしの母校・修道」が編集発行される予定になつていきます。今回の有意義な「入学古希大会」は、数十年にわたる万年世話人の情熱の賜物であり、心から感謝する次第です。

平成28年度修七会

修七会会長・世話人 山下 泉(高7回)

平成28年度の修七会は例年通り7月の第一土曜日の7月2日にリーガロイヤルホテル広島32階「ダイヤモンドホール」で開催しました。

今年90歳を迎えられる保澤先生が元気で参加して頂き、全員でお祝いし敬意を表した。又、昨年と同様、現役の修道中・高の田原俊典校長にも出席頂きました。昨年まで幹事、会計を担当していた吉田邦介君が9月に逝去され、併せて8名の物故者に黙祷を捧げて会が始まった。

会長の挨拶のあと、森本弘道名誉会長が去る6月2日の関東修七会に出席した経過報告があった。関東・特に東京近辺付近の26名が参加し昼間の例会であり、皆様月1回のペースで逢っている為か非常に和やかに談笑していた。

いつも山登り、カラオケ、旅行など実施しており、老人生活をエンジョイしていることの報告があった。

広島修七会も本年80歳を迎え、ほとんど現役の人はいなくなつたので、平日の昼間に例会変更をすることも考える時が来たと実感した。

今年も亀井静香君が出席し、参院選挙の予想や衆議院議員の中で最長老となつた感想など交えて亀井節を披露した。非常に元気で当分議員生活をするのではと皆の印象であった。

田原校長は中学入試で合格しても他校に逃げていた生徒が、ほとんど修道を選んで入学するようになったことを話され、非常にうれしく感じられた。

関東修七会会長の杉山君や久しぶりに出席した京都大学病院の佐古君が近況を語った。

やはり話題は健康のことが中心であり、80歳は年相応に身体上の欠陥が生じているようであり、これからは「元気で長

平成28年度修七会



平成28年度「修道12回同期会」を終えて

修道12回同期会実行委員会 増本 光雄(高12回)

今から遠く去ること、2016年1月12日(火)に広島本通にある「アンデルセン6階デンマークルーム」に於いて例年の如く12回卒の同期会を開催した。

本年あらかたの者が75歳に達し「後期高齢者」の認定を受けることになる。ご親切なことに運転免許書の更新には「呆け」のテストが加えられる。

久し振りに学生時代の入学試験の緊張感を彷彿させてくれて、いたたまれない感情を抱いたまま「運転免許教習所」に足を運ぶ。

さて、同期会のことである。ご案内のご通知と共に過去3年間の出席者の名簿を添付しておくことにしている。

あれでも「あいつが出席するのなら」とつられて、出席してくれる気におおじいさんがいることを期待しての策略である。この戦略の効果のほどは計り難いが、この3年間60名から65名の間を行き来した員

同期会報告

『修道中学6組会』実行委員会

増本 光雄(高12回)

確か入学時には1クラス61名いた筈であるが、3年経った中学卒業時の集合写

昭和31年(1956年)卒
『修道中学6組会』同窓会

「翌日からはまたテレビに話しかける静かな生活が待っていますから、人に迷惑の懸らない程度に今日だけは羽目を外して大いに騒いで帰って下さい」と同期会の世話人は心の中で呟きながら、本年度は一人としてこの晴の同期会の席でぶつ倒れなかったことを神に感謝しつつ、二人一人寒風の中に送り出すのであります。

ともあれ、出席して来てくれた同輩は少なくとも口ばかりは元気な連中であるから、中学高校時代に戻って大声を張り上げて、場を賑わせてくれる。

「この歳になると明日をも知れない儚い命である。」



数を確保している。最大の努力を重ねての結果である。

毎年5人前後の善良な同期生があつた旅立つて行っている。中には家族に外出禁止令を発令されている者もいれば、足腰がいうことを利かない者もいる。開催2・3日前の攻防は熾烈である。

「出んと返事をしたが、どうやら這うて行けそうである」という敢闘精神に富んだ輩もいれば「出る積りでいたが、このところいまいち体調が優れず、どうにも起き上がれない。残念至極である」という急遽断りの連絡が大概2・3件はある。

同期会の世話人はこういう事態を先刻頭にインプットしているの、さして驚くことは無い。



真には55名の生徒しか写っていない。2016年1月現在ですにかつてのクラスメイト12名が鬼籍に入っている。

これまで30年以上毎年12月30日に中学時代の同窓会を開催してきた。

本年度ですべての者が74歳を超える同級生もこの歳になつて出席者が急激に減ってきている。

全盛期は全国から31名の出席者を迎えたが、遂に「昨年は25名、昨年は22名と激減の時期が襲ってきた。」

その原因のほとんどが死亡乃至は体力に自信が無いというもの。

後期高齢者対象の同窓会もそろそろ気候の良い、昼間の時間に変更しなければいけないかと考えている。

1957年の高校1年の時、かの悪名高い「売春禁止法」が発令され、思いもしなかつたライバル校「広島学院」が誕生している。正に激動の時代であつた。

そのような環境をもととせず、我々中学生は無邪気に遊びほうけていた。

一方、当時学校側の我々生徒に対する勉強方面、あるいは体育方面の強圧は相当なものであつた。授業中の先生による殴打は日常茶飯事で、体育の授業ともなると更に体罰は倍増した。いたいけな生徒たちはその重圧を潜り抜けて、自由気儘に自分自身の個性と感性を磨いていった。

まだ右も左も判らない成長盛りを共に過ごした生徒達の団結心はこの時代に築き上げられた。

この繋がりは正に『肉親』のそれである。

1本のラムネを共に飲み合った時を連綿と引き継いで、今も1つの皿を分け合つてなんのわだかまりもない。そういう意味で

第29回 修寿会総会・懇親会報告

幹事 田中 佳樹

は、『文武両道』という場を与えてくれた『修道という場』以上に『友』との邂逅を育んでくれた『修道という場』に深く感謝している。

この場は未だに綿々とつながっていて、多くの交流を支えている。即ち旅行であり、飲み会であり、ゴルフ会である。

そうして、その集大成が『クラス会』(同窓会)なのである。

クラス会を開催すると、ここ数年は『乾杯』の後に必ず『献杯』が続く。これはなんとも切なく、やりきれない。

しかしこれは厳然たる『現実』である。厳粛に受け止めなければならない。

なにはともあれ、修道生は人生において有終の美を飾らねばならない。

修道中学校・高等学校退職教職員の集いである『修寿会』(会長・畠眞實、会員81名)の第29回総会・懇親会が平成27年10月10日(土)、12時からメルパルクHIROSHIMAで開催され、22名の参加をいただきました。

開会宣言の後、先に逝去された金子慧会員(2015年5月6日逝去)へ黙祷を捧げ、氏の冥福をお祈りしました。この後、新会員になられた坪井悟氏、三輪裕久氏、近川俊治氏、小泉健司氏の四氏から入会のご挨拶を頂戴しました。田中博司氏ご発声による乾杯の後、懇親会へ入りしました。

会員の日頃の趣味や研究結果を発表していただき、より多くの会員のご参加と、相互の情報交換の場にしたという趣旨から、一昨年より始めた『卓話』については、当初ご快諾いただいていた方が当日ご欠席とのこと、急遽畠会長にピンチヒッターをお願いしました。

畠会長から、お住まいの祇園地区を中心とした郷土史についての研究や卒業生と探訪された、広島に残る歴史的遺産についての発表をしていただきました。



木村・吉崎・玉置・小泉・内・三輪・近川
寺山・有田・河野・街道・竹永・田中(博)・坪井・田中(佳)
松尾・保澤・小田・畠・田中(喜)・田中(正)・仲井 (敬称略)

その後、参加者の皆さんから近況報告をしていただきました。やはり加齢からくる身体の変化に関するお話が中心ではありましたが、90歳を超えてなお矍鑠たる松尾博之氏、田中喜久治氏のお姿に接し、斯くありたいと感じたのは私一人ではなかつたかと思ひます。

恒例行事である、円陣を組んでの校歌斉唱のご発声を街道武司氏に、田中正久氏ご発声による万歳三唱を行ない、予定した時間を超過してお開きとなりました。

次回は、平成28年10月8日(第2土曜日)12時から、メルパルクHIROSHIMAでの開催を予定しております。

訃報

元副会長

中吉 啓治 様 (旧中33回)

平成28年6月5日ご逝去

副会長

松田 弘 様 (高24回)

平成28年7月7日ご逝去

謹んでご冥福をお祈りいたします。

役員改選について

修道学園同窓会連合会役員並びに修道学園(中・高)同窓会役員の任期(3年)が、平成29年3月31日をもって満了となります。

つきましては、今後、次期役員選出に向けて作業を進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

役員改選のスケジュールは、次のとおりです。

- ① 年内に評議員全員に就任依頼書送付
- ② 平成29年3月10日の評議員会・幹事会において、幹事・監査・会長・会長代理・副会長・名簿委員選任

写真・資料提供のお願い

修道学園(中・高)同窓会では、過去の写真・資料等を収集しております。写真・資料をお持ちの方は、是非ご提供くださいますようお願いいたします。提供いただきました資料は、会報誌や三百年学園史の資料として使わせていただきます。ご協力をお願いいたします。

住所変更手続きのお願い

会員の方で住所・電話番号・勤務先・メールアドレス等変更になった方は、変更手続きをお願いします。

変更手続きは、修道学園(中・高)同窓会ホームページの住所変更登録フォーム、または同窓会名簿内の添付ハガキでご連絡ください。電話・FAXでも結構です。ご協力をお願いいたします。